

但馬の医療確保対策協議会

平成18年7月から平成19年2月にかけて3回の協議会が開催され、但馬の医療再編の方向性についての「報告書」が取りまとめられた。この報告書に基づき、但馬の公立病院の再編が平成19年10月に実施された。平成20年9月には、第4回の協議会を開催し、再編後の検証が実施された。

<協議会メンバー>

但馬3市2町長、公立病院長（豊岡・八鹿・香住・浜坂）、医師会長（豊岡市、養父市、朝来市、美方郡、出石郡）、県看護協会長、県立淡路病院長、兵庫医科大学教授、県医務課長、長寿の郷長 19名

<基本的方向性>

- ①但馬全体の医療を急性期と慢性期の対応に分けて再編する。
- ②医師を集約することにより、新たな体制を構築する。
 - ・集約した病院の院内体制の再編
 - ・巡回診療による外来機能支援強化
- ③慢性期医療を担う病院は、既に持っている特殊要素を考慮して規模を定める。
- ④慢性期医療を担う病院の外来機能の充実を図る。
- ⑤但馬北西部の鳥取県境地区については、鳥取県立中央病院等への県外搬送の状況も考慮する必要がある。
- ⑥小児科、産科も②③に伴い、集約化を行う。
- ⑦療養病床の整理を行う。

<再編の考え方 朝来市域関連分>

- (1) 和田山病院については特色ある医療機能の分担を考慮し100床程度を維持する。
- (2) 50床規模病院の取り扱い（梁瀬病院）
 - ①慢性期医療を担当する。
 - ②病院として存置する。
 - ③常勤医師は3名を原則とする。
 - ④運用にあたっては、医師確保の状況に応じて、設置者が、病床規模、病床種別を実施する。
 - ⑤朝来市域の病院（和田山、梁瀬）は一体的に運用する。

<平成20年9月の検証>

- 24時間の救急体制は再編により但馬全体では確保されているが、中小の病院では後退している。
- 鳥取との連携、総合診療部による医師派遣、3府県によるドクヘリの検討など医療機関の連携は進んできた気配もあるが、さらに強化していく必要がある。
- 医師が減っている現実があり、これまで以上に医師確保対策を行う必要がある。

公立豊岡病院組合立病院のあり方検討委員会

医師不足の危機的な状況の中で今後の組合立病院のあり方を検討するため平成18年2月より5回の委員会を開催し、平成18年7月に同「報告書」、平成19年3月に同「基本計画・実施計画」を取りまとめた。

「基本計画・実施計画」には、但馬の医療確保対策協議会の「報告書」及び朝来市から提出のあった「朝来市の医療確保についての要請」についても検討の上で策定を行った。

<委員会メンバー>

有識者（赤穂市民病院長、広島国際大学助教授）、医師会代表（豊岡市、出石郡、朝来市）、地区代表（豊岡区長協議会、日高区長協議会、出石区長協議会、山東町区長会、和田山区長会）、各種団体代表（豊岡青年会議所、南但青年会議所、こうのとり荘、但馬障害者通所施設連絡会、子育てサークル、但馬薬剤師会、豊岡市老人クラブ連合会）、構成市（豊岡市、朝来市）、兵庫県（長寿の郷） 20名

<計画に記載された朝来市域の診療体制>

和田山、梁瀬の2病院を一体的に運営することを基本に和田山病院は慢性期医療、整形外科医療に重点を置き、梁瀬病院は慢性期医療、初期医療を担うなど、従来からの医療を継承する。

また、両病院がお互い補完しながら機能分担と連携を推進することにより、救急、入院、健康等朝来市域全体として必要な医療を提供する。

○公立和田山病院

和田山病院は整形外科を中心とした医療を担うとともに、リハビリテーションセンター機能の充実を図る。なお、この度の連携に合わせて名称を公立朝来和田山医療センターに変更する。

役割：◆朝来市域の地域病院 ◆整形外科・リハビリテーションセンター

診療機能：◆一般病床（整形外科・内科・脳神経外科（一部））◆療養病床（医療型）◆外来診療（基本的診療機能）

◇入院医療については、内科、整形外科及び脳神経外科での患者を受け入れる。

◇外来医療については、内科、整形外科、脳神経外科を主体とし、それ以外の必要とされる診療科については出張診療により対応する。

◇救急については、梁瀬医療センターとの連携により、二次救急に対応できる体制づくりを進める。

◇療養病床は、当面医療型患者の受け入れを中心に行うものとするが、回復期リハビリテーション病床への変更も検討する。

○公立梁瀬病院

梁瀬病院は旧山東町地域における総合医療を中心とした初期医療や慢性期医療を担うものとする。また、病棟施設については当分の間規模を縮小して運用する。なお、この度の連携に合わせて名称を公立朝来梁瀬医療センターに変更する。

役割：◆朝来市域（旧山東町地域）での初期医療（総合診療）

診療機能：◆一般病床 ◆外来診療 ◆市民健診

◇入院医療については、内科、外科での患者を受け入れる。

- ◇市民健診については、和田山医療センターとの連携の下に実施し、疾病予防、早期発見及び早期治療に取り組む。
- ◇救急医療については、和田山医療センターとの連携により、二次救急に対応できる体制づくりを進める。

公立豊岡病院組合 改革プラン

全国の自治体病院の全てが作成することとなっている経営改善計画。平成20年12月策定

公立豊岡病院組合では、平成21年度を初年度として、平成29年度までの9年間で組合全体として経常収支を黒字化するとしている。

<策定委員会メンバー>

有識者（広島国際大学准教授）、構成市副市長（豊岡市、朝来市）、公立豊岡病院組合（5病院長、労働組合副院長）

9名

<梁瀬医療センターと和田山医療センターの果たすべき役割等>

公立朝来和田山医療センター、公立朝来梁瀬医療センターの2病院を一体的に運営することを基本に、両病院がお互い補完しながら機能分担と連携を推進することにより、入院等朝来市域全体として必要な医療を提供する。

その中で、公立朝来梁瀬医療センターは朝来市における総合医療を中心とした初期医療・慢性期・市民健診を担うものとする。

役割：朝来市域（旧山東町）における初期医療（総合診療）

内容：入院医療については、内科、外科での患者を受け入れる。

市民健診については、公立朝来和田山医療センターとの連携の下に実施し、疾病予防、早期発見及び早期治療に取り組む。

その中で、公立朝来和田山医療センターは、整形外科を中心とした医療を担うとともに、リハビリテーション機能の充実を図る。

役割：朝来市域の地域病院

リハビリテーションセンター

内容：入院医療については、内科、整形外科及び脳神経外科の患者を受け入れる。

外来医療については、総合診療科（内科）、整形外科、脳神経外科を主体とし、それ以外の必要とされる診療科については出張診療により対応する。

救急については、二次救急体制の充実を図る。

療養病床は、医療型患者の受け入れを行っているが、回復期リハビリテーション病床への早急な変更を検討する。